

# 史跡米子城跡発掘調査 現地説明会2021資料



「米子御城平面図」[江戸末期]: 米子市立山陰歴史館蔵

令和3年(2021年) 9月 12日 [日]

米子市文化振興課 (☎0859-23-5437)

米子市では、令和3年3月26日に国史跡に追加指定された米子城跡三の丸（旧湊山球場敷地）および二の丸枅形の整備に向けた遺構確認のための発掘調査を進めています。

調査の結果、内堀、米蔵の建物基礎および石敷水路を確認することができました。

## 1 発掘調査の成果

①調査開始 令和3年4月

②調査目的 旧湊山球場内の三の丸広場及び枅形整備に向けた遺構確認のための発掘調査

③調査成果

### 【三の丸】

旧湊山球場は、史跡米子城跡三の丸の中心部に位置しています。絵図によれば、ここには城主中村一忠もしくは家老の屋敷をはじめ、政務を行う施設や、米蔵、馬屋それらを囲む内堀などがあり、二の丸と共に米子城の行政機能をつかさどる重要な場所でした。

調査の結果、旧野球場グラウンド面から約20cm下で、江戸時代の米蔵の建物基礎や石敷水路などが確認されました。建物基礎は溝を掘って中に石を詰めて突き固め、上面に65cm～130cm程の大型の平らな石を一直線に敷並べています。規模は、桁行（けたゆき）30m、梁行（はりゆき）6mで、片側に庇（ひさし）が付けられていました。幕末の絵図には、検出された建物基礎と同規模の米蔵が描かれ、絵図の正確さも裏付けられました。同様の遺構は鳥取城の粃蔵跡でも見つかっています。なお、現存する例として、鳥取県内には東伯郡湯梨浜町橋津にある藩倉（県指定保護文化財）があります。

石敷水路は長さ約20m、幅0.6～0.7mを検出しました。北に向かって緩やかに低くなっており、溝底には薄板状の割石を敷き詰めており、水にぬれると鮮やかな青色になります。三の丸にあった屋敷の庭園施設の一部、もしくは庭園への導水施設の可能性もあります。

以上のことから、旧湊山球場の下には江戸時代の遺構が良好に保存されていることが確認できました。

### 【枅形（ますがた）】

枅形虎口は米子城二の丸の入り口施設です。二の丸には城主御殿があったので、ここで敵を食い止める戦略的にも、また権威誇示にも重要な場所でした。このため内部空間が32.0×35.0mと広く、また大きく立派な石を使っています。

調査の結果、枅形の石垣は、現地表面から1～1.5m下まで土に埋もれていることを確認しました。石垣の高さは、最も高い所で3.9mとなり、絵図に記載された2間（約4m）の数値とほぼ一致しました。

米子城二の丸枅形は大きさだけでなく、高さもしっかりした非常に迫力のある防御施設であったことがわかりました。（調査担当 濱野浩美、佐伯純也）

## 2 令和3年度の三の丸整備予定（9月以降）

- ①旧湊山球場内野スタンド（1塁側、3塁側）の撤去
- ②三の丸～二の丸の危険木伐採
- ③枡形の地表下の石垣カルテ作成
- ④裏中御門の石垣カルテ作成

## 3 令和4年度～5年度の主な整備予定

【三の丸】トイレ等便益施設設計建築、内堀の表出、三の丸広場整備（盛土）など

【その他】園路整備（手すり設置など）、サイン類整備、危険木伐採、枡形石垣整備など

### ※参考（経過等）

平成18年1月	米子城跡本丸、二の丸 国史跡指定告示
平成29年3月	史跡米子城跡保存活用計画策定
平成31年3月	史跡米子城跡整備基本計画策定
令和2年7月	三の丸（湊山球場敷地）追加指定意見具申
令和2年9月	湊山球場廃止
令和2年11月	三の丸（旧湊山球場敷地）追加指定答申
令和3年3月20日	三の丸駐車場オープン
令和3年3月26日	三の丸（旧湊山球場敷地）追加指定告示

米子城跡は、平成18年1月に本丸、二の丸、内膳丸を中心に国指定史跡となりました。

その後、平成29年3月に史跡米子城跡保存活用計画、平成31年3月に史跡米子城跡整備基本計画を策定し、史跡整備に取り組んでいるところです。

三の丸の整備にあたっては、遺構の状況を把握する必要があり、令和2年度に三の丸駐車場部分の発掘調査を実施し、米蔵の建物基礎、内堀などを確認しました。令和3年度は、引き続き三の丸の発掘調査を実施し、米蔵の建物基礎、石敷水路、内堀などを検出、確認しています。



# 米子城関連年表

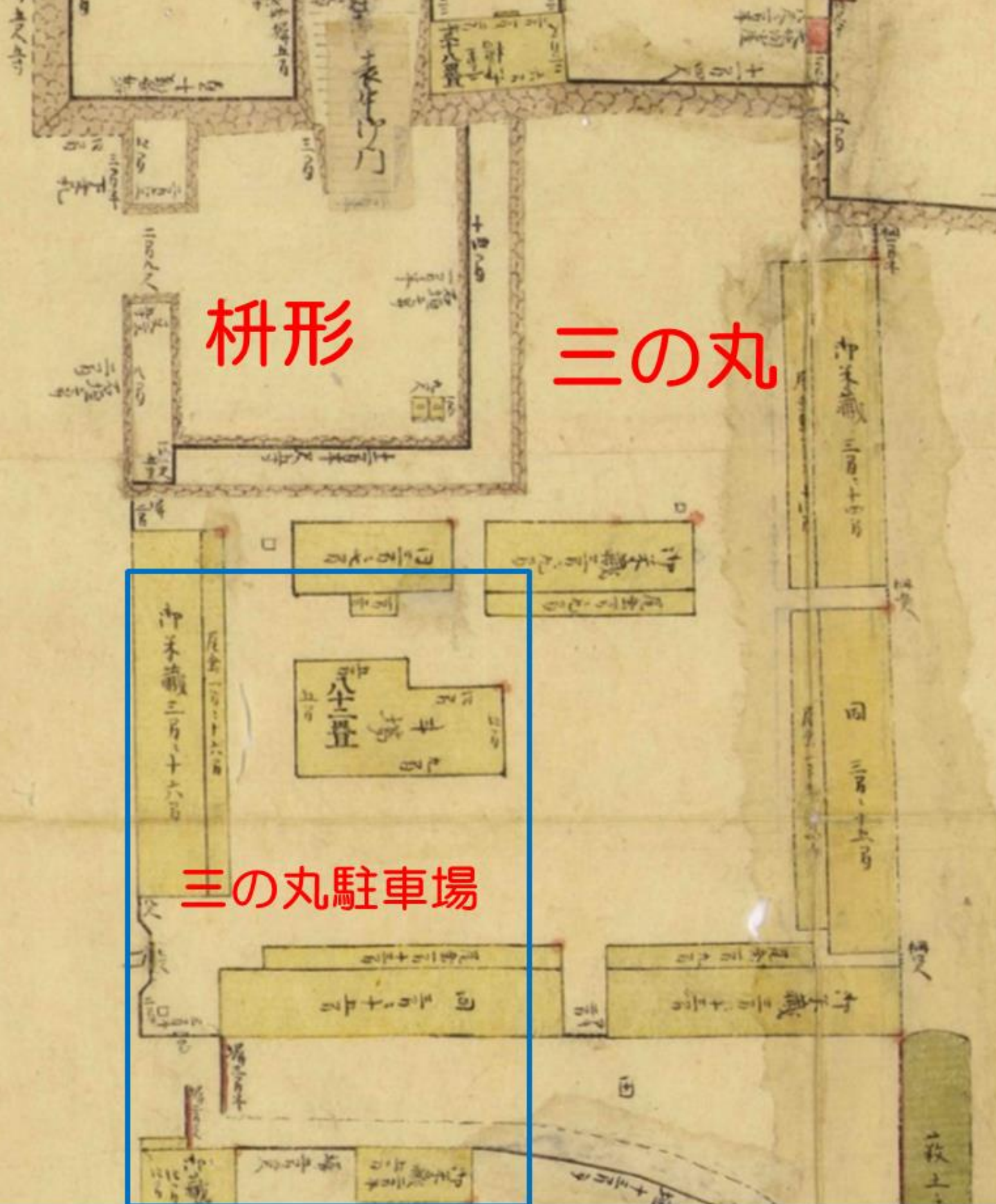
年	内 容
応仁 1 年 (1467)	応仁の乱の頃、米子飯山に山名宗之が砦を築く。
大永 4 年 (1524)	5 月 尼子経久伯耆に侵入 米子城、淀江、尾高などの城を攻め落とす。
永禄 5 年 (1562)	毛利元就の富田城攻め、因幡、伯耆へも進出。
永禄 9 年 (1566)	富田城陥落。山陰地域は毛利支配下に入る。
天正 6 年 (1578)	尼子勝久上月城で自刃 尼子氏滅ぶ。 この頃の米子城番は古曳吉種。
天正 9 年 (1581)	鳥取城落城、秀吉が伯耆一円を支配。
天正 13 年 (1585)	秀吉と毛利輝元の和睦 八橋以西の伯耆三郡が毛利領となる。
天正 15 年 (1587)	吉川広家 (吉川元春の三男)、吉川家の家督を継承。
<b>天正 19 年 (1591)</b>	<b>吉川広家が秀吉から西伯耆、出雲、備後など 12 万石を認知され、富田城に入り、山県九左衛門を奉行として米子湊山に築城開始。</b>
文禄 1～慶長 3 年 (1592～1598)	<b>文禄・慶長の役</b> (朝鮮出兵) 吉川広家従軍 古曳吉種は朝鮮で討ち死 (1592)。 慶長 3 年 8 月、秀吉死す。 吉川広家、富田城に帰り湊山築城を監督、米子湊、深浦湊整備。
<b>慶長 5 年 (1600)</b>	<b>関ヶ原合戦 吉川広家、西軍として出陣</b> 吉川広家、周防国岩国 (3 万石) に転封、この頃米子城は 7 割方完成。 駿河国府中城主、中村一忠 (18 万石) が伯耆国領主となり尾高城に入る。
慶長 7 年 (1602)	中村一忠、尾高城から完成した米子城に移る。
慶長 8 年 (1603)	中村一忠、家老の横田内膳を暗殺 (米子城騒動)。
慶長 14 年 (1609)	中村一忠 20 歳にて死去、中村家は断絶。
<b>慶長 15 年 (1610)</b>	<b>岐阜美濃国黒野城主加藤貞泰、伯耆国会見・汗入郡 6 万石領主となり入国する。</b>
元和 1 年 (1615)	大坂夏の陣、豊臣氏滅ぶ。幕府は一国一城令を発布するも、米子城は保存と決まる。
元和 3 年 (1617)	加藤貞泰、伊予国大洲に転封、因伯領主となった池田光政の一族、 <b>池田由之</b> が米子城預かり (3 万 2 千石) となる。
元和 4 年 (1618)	池田由之死去、子由成が米子城主となる。
寛永 9 年 (1632)	池田光仲、因伯支配 (32 万石)、家老 <b>荒尾成利</b> が米子城預かりとなる。
嘉永 5 年 (1852)	四重櫓と石垣を鹿島家の負担により大修理。
慶応 4 年 (1868)	明治維新。
明治 2 年 (1869)	朝廷より米子城返上の命令あり。
明治 5 年 (1872)	米子城山は土族小倉直人らに払い下げとなる。
明治 6 年 (1873)	城内の建物類は売却され、数年後取り壊される。





上空から見た三の丸発掘調査現場





三の丸

三の丸

三の丸駐車場

# 古絵図に描かれた三の丸米蔵

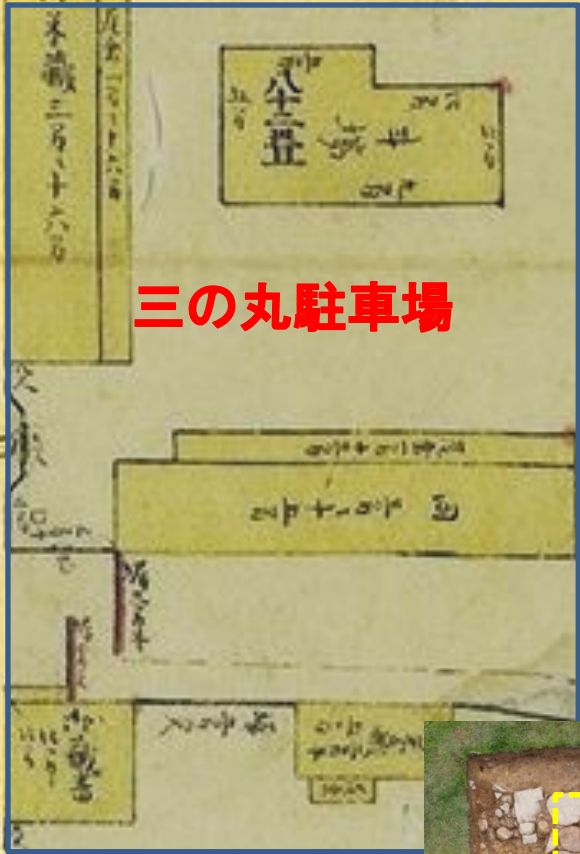
「米子御城平面図」〔江戸末期〕：米子市立山陰歴史館蔵



検出された  
石敷水路



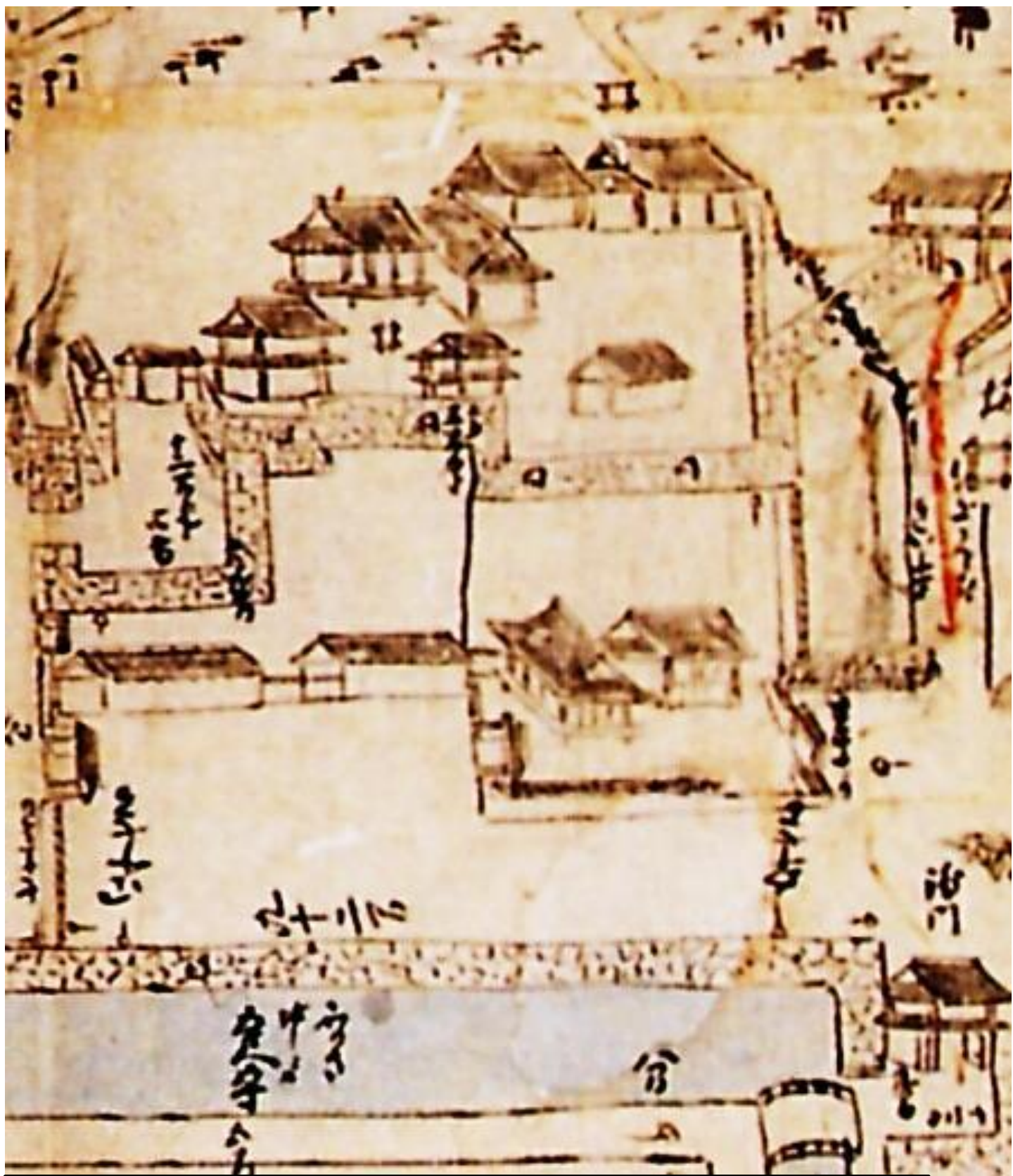
三の丸駐車場



検出された  
米蔵基礎



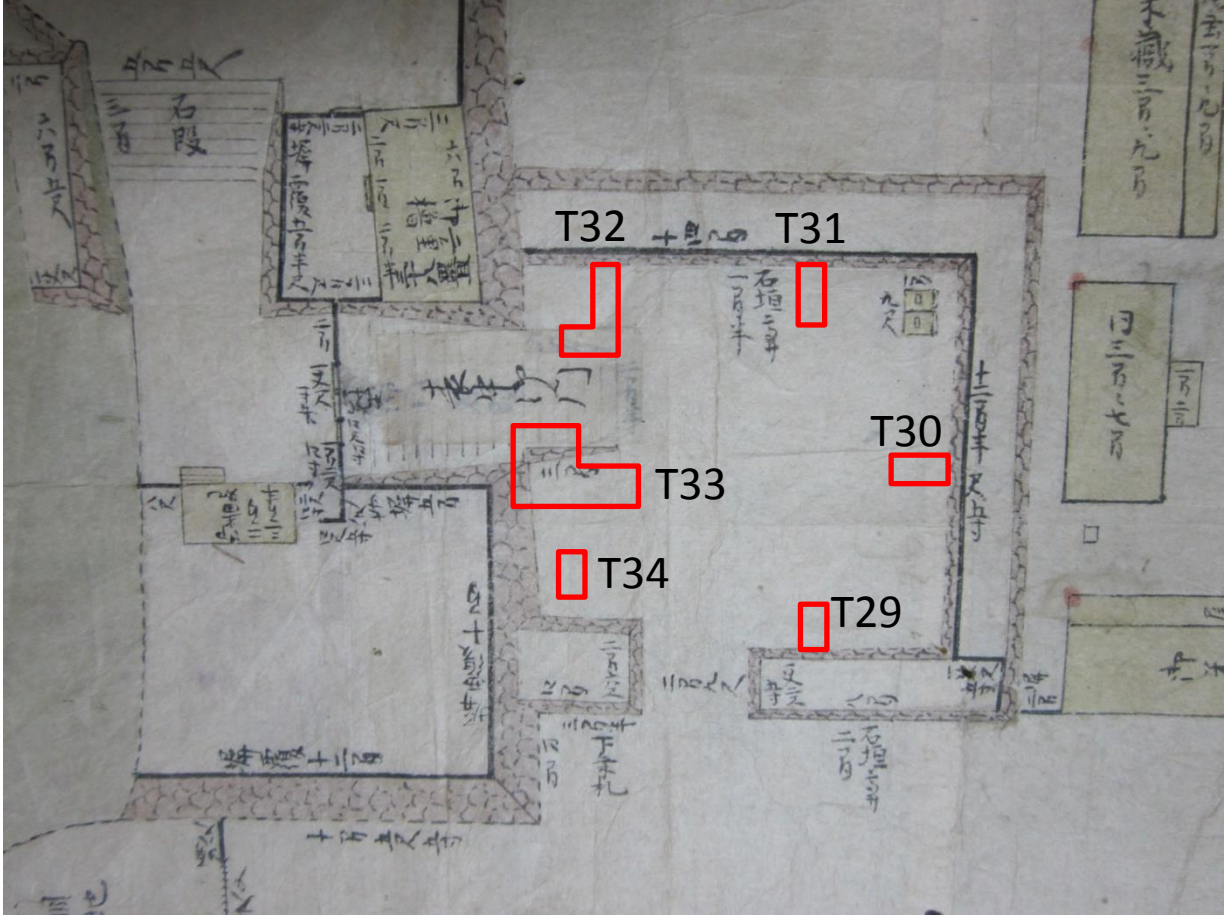




## 江戸前期の古絵図に描かれた三の丸の屋敷

「米子城下古絵図」〔江戸前期〕：米子市立山陰歴史館蔵





元治2年（1865年）の絵図に記載された枅形



①T33の下層石垣



②T29の下層石垣(石垣の高さ約3.9m)



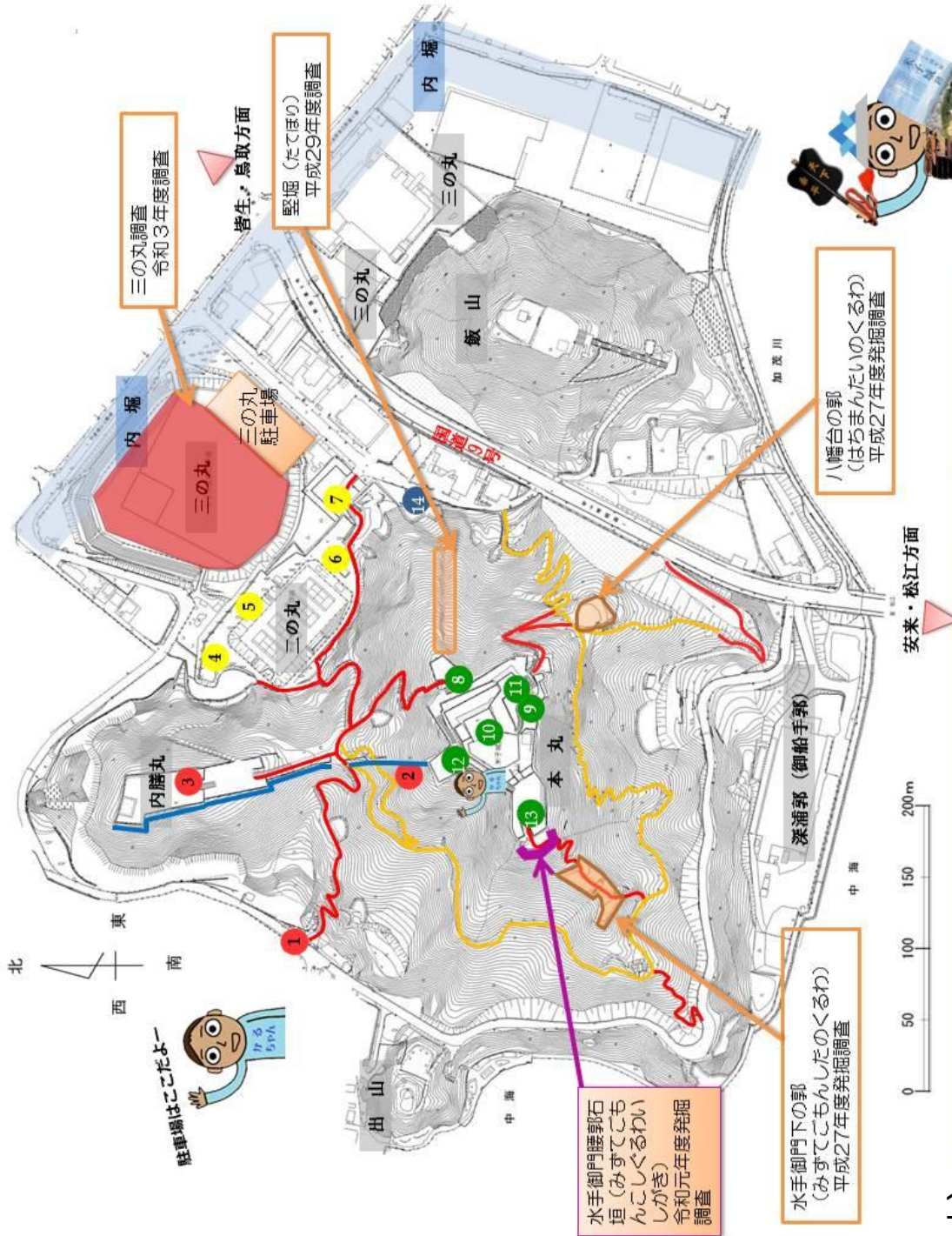


橋津藩倉(湯梨浜町)：湯梨浜町教育委員会提供



【米子城跡の園路について】

- ◆国史跡米子城跡へはお車は「湊山公園無料駐車場」をご利用ください。
- ◆登り口から山頂の天守までは20分ほどかかります。
- ◆城跡内にトイレは「二の丸」にしかございませんので、ご注意ください。
- ◆—は四国八十八箇所の石仏めぐりルートです。



1	鈴門 (すんずもん)	
2	登り石垣 (のぼりいしがき)	
3	内膳丸 (ないぜんまる)	
4	裏御門跡 (うらごもんあと)	
5	二の丸跡 (このまるあと)	
6	旧小原家長屋門 (きゅうはらおやけぢやまんと)	
7	枳形 (ますがた)	
8	番所跡 (ばんしょあと)	
9	鉄御門跡 (てつごもんあと)	
10	天守跡 (てんしゆ)	
11	四重櫓跡 (しじゆうやぐら)	
12	遠見櫓跡 (とほみやぐらあと)	
13	水手御門跡 (みずてごもんあと)	
14	城山大師 (しろやまだいし)	